

私たちがするべきこと

三年一組 高山 愛佳

私は毎日、自由に自分がしたい事をして生活しています。きっと戦争が終わった日本には、自由に暮らせるんしか居ないのだろうと思っっていました。しかし先日、学校の社会の授業で、自分より幼かった十三才の横田めぐみさんが、無差別に北朝鮮に拉致された出来事を知りました。私はとても胸が痛くなりました。もし自分だったら、と考えるても、自分の家族が、と考えるても苦しかったです。横田めぐみさん以外にも十六人も拉致された人が居ると聞き、夏休みにはインタビューをした。使って拉致問題について調べました。まず「拉致問題」と聞くと随分と昔の事だと思えてしまふけど、ほんの四十年前の出来事なのだと思いました。より身近に感じました。怖く思いました。横田めぐみさんと同じ様にほとんどの被害者は家族のもとに帰ってくる。ことが出来ずにいるそうで、北朝鮮はどうし

てそんな酷い事をするのだろうと思いました。
 「命以外、全部奪われました。」これは、蓮池
 薫さんという拉致被害者の方が言った言葉で
 す。この言葉を聞いて私は、人の一生の自由
 を奪ってまで利益は欲しくないし、同じ人間
 として信じられないと思いました。
 そんな中、拉致被害者の家族方が「北朝鮮
 による致致被害者家族連絡会」（家族会）を
 結成した事を知りました。家族を一人失う悲
 しみは、言葉にあらわせない程大きく、ご家
 族の方は苦しい思いをされたはずですが、それ
 でも「思い出したくない出来事」ではなく「
 忘れられてはいけないう出来事」として、ま
 とまた会えると思える思いはとても強いと思
 いました。
 この、現在も続いている拉致という問題に
 私たちが出来る事はなにか調べ、家族会の方
 々が街頭署名活動をしている事を知りました。
 岐阜県では令和二年度一月十一日に岐阜駅で
 行われるそうです。集められた署名は、被害

者全員の帰国を実現するための世論喚起とな
 るそうです。これは私たちが拉致被害者の方
 やそのご家族に協力できる活動だと思いま
 そうです。また、授業で話を聞く前の私の様
 子に、拉致問題が昔の話と思われのは良くな
 と思います。被害者のご家族は一日も忘れ
 らないはず。そのために私たちもこの問
 題を知り、忘れない必要があります。
 北朝鮮による日本人拉致問題は人権侵害で
 あり、許される事ではありません。人権
 とは「すべての人々が生命と自由を確保し、
 それぞれの幸福を追求する権利」であり、拉
 致はその権利を無視しています。
 今回この作文を書くにあたり、拉致とい
 うことはなれない問題を知り、自分に出来
 る事を確認する事ができました。一刻も早い
 被害者全員の帰国と、帰国後の自由を願いま
 す。